

『ブナ林ピック』を7年ぶりに開催しました

山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター
流域保全部門長 菊池 俊一

著しい豊凶性を持つブナ。山形県では今年の実りはどうだったのでしょうか。2022年7月15日に山形県環境科学研究センターが発表した豊凶予測では県内14箇所の調査地点のうちの半数の7地点で並作、5地点が豊作、2地点が凶作となっていました。そして10月21日に発表された東北森林管理局の結実結果では今秋は並作（豊凶指数3.1）であったと報告されました。当林のブナ林でも実が着いている個体が多いように見え、凶作が続いていたここ数年間とは様子が違うなあと感じられたシーズンでした。

これを背景に森林文化都市研究会（当方もメンバー）と鶴岡市は、『第2回ブナ林ピック』を2022年11月13日に開催しました。同研究会は森林散策イベントである『つるおか森の時間』を鶴岡市とともに企画・運営しています。市民に森で過ごす楽しさを知ってもらい、森林や森林地域についての理解を深めることを目的に年に3~4回実施されているイベントです。当林でもこれまでに何度も開催され、市民に演習林を知ってもらう機会となってきました。『第2回ブナ林ピック』はその『特別編』として実施されました。

『ブナ林ピック』とは何か。それは、ブナの実の種皮を手で器用に剥いて、食べられる部分（胚乳）を取り出すアクティビティーのことです。ブナの豊凶について精力的に研究を展開されていた故小山浩正氏（山形大学農学部教授、2016年3月逝去）が提唱し、豊作であった2015年10月に第1回大会が開催されました。並作となった今年はその第2回大会として7年振りに開催しました。開催できるかどうかはブナの実りに左右されますから、本当のオリンピックみたいです。

第2回大会は3部構成としました。第1部はブナの木に関するミニレクチャーを当方が担当しました。第2部はブナ林ピックの競技会です。制限時間15分間にどれだけ多くのブナの実が剥けるかを参加者が競うものです。勝敗は重さで競います。第1回大会で記録されたワールドレコードは16.57gでした。この記録突破が目標となります。そして第3部はブナの実を使った料理作り体験でした。ブナの実を使った新しい料理を市内のプロの料理人に創作してもらい、実技指導をしてもらいながら調理しました。

当日は親子数組による20数名に大会参加をいただきました。実は鶴岡市のみならず県内各地からかなり多くの申込みが寄せられていましたが、会場の収容人数の関係から抽選で人数を絞らざるを得ず、残念でした。その一方、このようなイベントへの市民の関心の高さをうかがい知ることができました。さて、ブナ林ピック競技ではワールドレコードは破られたのか、新記録は出たのか。はい、新記録が出てかなりの盛り上がりとなりました！新記録は18.19g!! 15分間でおおよそ110個の実を剥いての記録となりました。競技中は参加者の皆さんの手元、手の動きを観察していましたが、優勝者はかなりの手際の良さでした。お疲れ様でした。

プロの料理人考案のメニューは『ブナの実とカラトリ芋のニョッキ』でした。在来作物のカラトリ芋や地物の小麦、米粉にブナの実をすりつぶして混ぜてニョッキをつくり、ブナに生える天然キノコのクリームソースをかけたものでした。子どもたちは先ほど観察したブナの実の形を模したニョッキを作っていました。仕上げにカラトリ芋を揚げたチップスを載せ、料理は完成しました。この時季のブナ林を歩いた時の落ち葉のカサカサ具合がチップスで表現されていました。ブナの実が入ったニョッキは「火の通ったブナの実は香りがさらに香ばしくなる」との感想が多くの方から寄せられました。また、香り高い天然キノコの入ったクリームソースは大人好みかと思いましたが、子どもたちも「美味しい！」を連発しながらたくさん食べてくれました。美味し

かったね。ご馳走様でした。

ブナ林ピックという誰でもトライできる競技を通じて知る地元の森のこと。ブナの実や地域の食材を使った世界のどこにもない創作料理を通じて知る地元の豊かさ。第2回ブナ林ピックは、森林文化都市を標榜し、さらにユネスコ食文化創造都市でもある鶴岡らしい森林環境教育の機会となったと思います。当演習林は、今回はブナの実の採集への協力にとどまりましたが、『ブナ林ピック』のような独自の仕掛けを介して地域社会と森、さらには地域社会と科学をつなぐ取り組みを展開していきたいと思えます。

次の『ブナ林ピック』はいつ、とはまだいえませんが、皮剥き競技の新記録に、ブナの実を使った新たな創作料理に次回も乞うご期待、です。

PS 第2回ブナ林ピックの様子を収めた動画を後日公開する予定です。



写真1 ブナ林ピック『皮剥き競技』の様子



写真2 ブナの実を使った料理作り体験の様子